報道発表資料

東京消防庁 Tokyo Fire Department

令和５年３月７日

東京消防庁安全憲章の制定について

東京消防庁では、令和４年４月、職務上の安全対策について組織横断的に取り組む体制を整備するために新たに安全推進部を創設し、安全推進体制を強化したところです。この度、全庁一丸となって安全対策を推進していくために、全職員が当庁の安全について統一的に思い描く理念と社会への宣言として、職員公募を基に、東京消防庁安全憲章を制定しました。

東京消防庁 18,600 人の全職員が、この安全憲章を拠り所として安全を最優先とする文化を築き上げ、安全な東京の未来を実現します。

１　背景

平成３１年１月に火災現場における殉職事故が発生し、更に令和元年１０月には、航空救助活動中に一般人を落下させる事故が発生したことを受け、令和４年４月、職務上の安全対策について組織横断的に取り組む体制を整備するため、新たに消防職務の安全対策を推進する全国唯一の専門部署である安全推進部を創設し、安全推進体制を強化しました。都民の安全・安心を守るためには、職務における重大事故の根絶を図り、安全を組織文化として深く根付かせていく必要がありますが、当庁には、あらゆる業務に通じて、全職員が共通して認識している安全理念等がなく、安全に対する考え方が統一されていませんでした。

このことから、全庁一丸となって安全文化の醸成を図るため、全職員が当庁の安全について統一的に思い描く理念として、安全に係る社会と組織への宣言及び職員一人一人の行動のより所・判断軸を示した東京消防庁安全憲章を制定しました。

２　概要

⑴　全文

別紙１のとおり

⑵　安全憲章に込めたポイント

別紙２のとおり

⑶　施行日

令和５年３月７日

問合せ先

東京消防庁（代表）	03-3212-2111
安全推進課安全計画係	内線 2446
広報課報道係	内線 2346～2350

別紙１

東京消防庁安全憲章

我々の目指す安全は、全ての人命を守り抜くことである。

だからこそ自らと仲間を大切に、それぞれが持てる力を発揮できるよう互いの階級や職責を超えて一致協力し、いかなるリスクにも対処できる組織となります。そして、一人一人の小さな一歩の積み重ねが生む確かな組織力をもって全ての業務を確実に遂行し、安全な東京の未来を築きます。

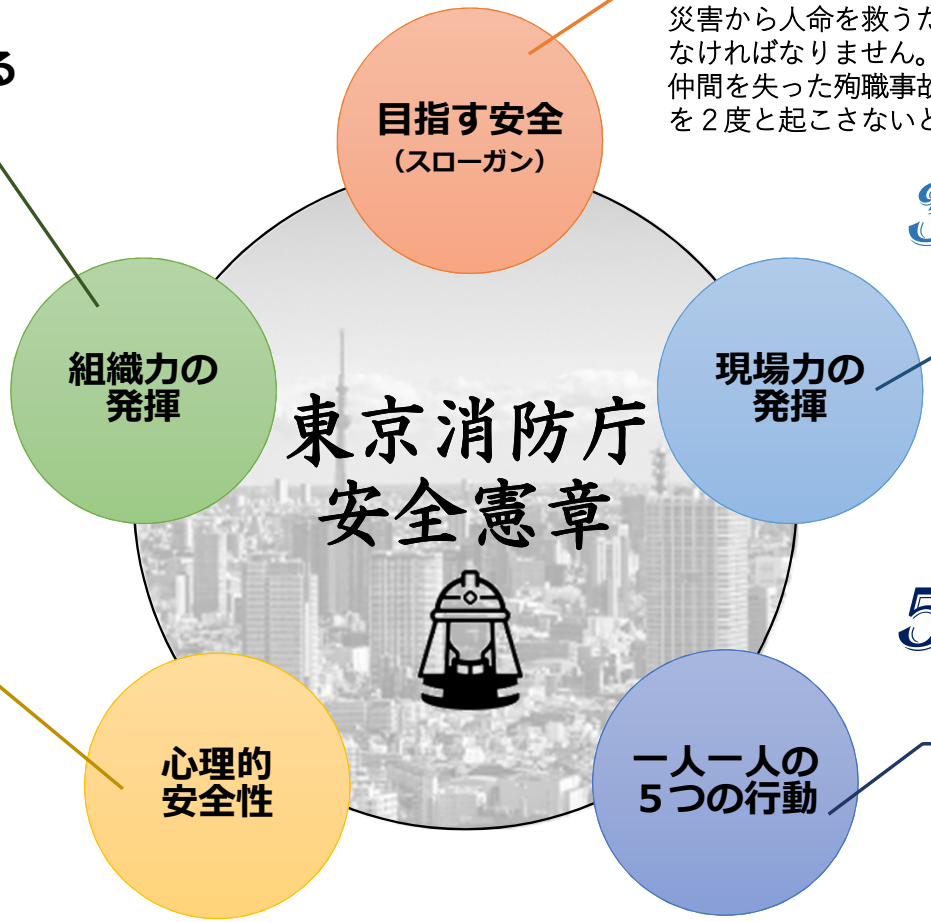
そのために、一人一人が次のことを行います。

- ルールが出来た意味を考え、行動します。
- 互いに聴く耳を持ち、気づいたことは伝えます。
- 進む勇気だけでなく、立ち止まる勇気を持ちます。
- 誰にでもミスは起こり得ることと理解し、助け合います。
- 気づきから学び、自らの成長と手順の改善を目指します。

別紙２

東京消防庁安全憲章に盛り込んだ５つのPoint

risk　safety



1 スローガンは、“全ての人命を守り抜く”

災害から人命を救うためには、職員の命も守らなければなりません。救える命を失った事故や、仲間を失った殉職事故といった過去の重大事故を２度と起こさないという決意を込めました。

2 現場活動だけでなく、あらゆる業務の遂行が安全を築く

スローガンの実現には、全ての業務の遂行が必要です。例えば、予防業務などは、今この瞬間の命を守る訳ではありませんが、未来の誰かの命を救っている等、安全な未来を築くためにはあらゆる業務を確実に遂行することが必要です。

3 想定外のリスクにも対処できる創造型組織を目指す

消防業務は、想定外のリスクと向き合う場面が多くあるため、マニュアルやルールを守るだけでは対処できない場面もあります。想定外のリスクにも柔軟な現場力で対処できる、“創造型組織”を目指します。

4 心理的安全性のある職場が、組織力と現場力を発揮させる

組織力や現場力を最大限に発揮するために、自ら考え、行動できるよう心理的安全性のある明るく風通しの良い規律ある組織を目指します。

5 一人一人の小さな行動の積み重ねが安全な未来へ繋がる

目指す安全の実現に向けて、全員が当事者意識を持ち、主体的に取り組む決意を込め、職員から多く集まった意見を基に守るべき５つの行動※を定めました。

※　一人一人の５つの行動については、以下のとおりです。

- **ルールが出来た意味を考え、行動します。**

  ルールの背景や意味を理解することが、ルールを守ること、そして、ルールが適用できない状況でも対応できる現場力の発揮に繋がります。

- **互いに聴く耳を持ち、気づいたことは伝えます。**

  聴く耳とは、音として“聞く”のではなく、相手の意見や考えを“聴く”姿勢を表しています。情報を共有するためには、発信する側だけでなく、受け手がまず聴く姿勢を持つことが重要であり、それによって初めて気づきを伝えることに繋がります。

- **進む勇気だけでなく、立ち止まる勇気を持ちます。**

  消防にとって、進む勇気は必要です。そして、懸念を感じた時に一度立ち止まることのできる勇気も持ち合わせることも必要です。

- **誰にでもミスは起こり得ることと理解し、助け合います。**

  ﾋｭｰﾏﾝｴﾗｰは結果であり原因ではありません。ミスをした個人への責任追及ではなく、背後要因に目を向け、協力し対策を打ちます。

- **気づきから学び、自らの成長と手順の改善を目指します。**

  安全は追求するものであり、成長と改善が必要です。事故や失敗だけでなく、何事もない日常の中での気づきを大切にします。